



特別養護老人ホーム もみじ館 定期発行広報誌

人をつなぐ広報紙“もみじん”

momiji

2026, May Vol.12

バトンをつなぐ。



名称が変更になりました

水戸市内原地域包括支援センター

「相談する場所」から「地域で支え合う仕組みの中心」へ

令和8年4月より『水戸市内原高齢者支援センター』は内原圏域を担当する『水戸市内原地域包括支援センター』に名称が変更になり、これまでの業務に加え、新たに介護予防ケアマネジメントも実施することになりました。地域にお住いの皆様との関わりに大きな変更はありませんが、これまで以上に様々な形で貢献していけるよう職員一同努めていきたいと思っております。

圏域型地域包括支援センターとは？

高齢者の健康面や生活全般に関する相談を受け付けている、地域に密着した総合相談窓口です。相談できる内容は、日常生活でのちょっとした心配事から、病気、介護、金銭的な問題、虐待など多岐にわたります。多様な相談内容に対応するため、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員などが配置されています。

地域包括支援センターの主な役割

総合相談支援業務

高齢者やご家族からのさまざまな悩みごとについて相談を受けています。相談内容に応じて、必要な制度やサービス、相談先を案内し、関係機関と連携しながら支援につなげていきます。

権利擁護業務

判断能力が低下し、自身での金銭管理が難しい高齢者には成年後見制度の活用を案内し、必要に応じて専門機関につなぎます。ほかにも、虐待被害の対応・防止・早期発見を行うなど、高齢者の権利を守る支援を行っています。

包括的継続的ケアマネジメント業務

民生委員、医療・介護の関係者といった多職種と連携・協力し、高齢者の生活を支援するのに必要なネットワークづくりや、地域ケア会議を開催し、ケアマネジャーが抱えている課題の解決に向けた支援などを行う。

介護予防ケアマネジメント業務

要介護状態にならないように介護予防を目的とした支援を行います。また、要支援認定を受けた高齢者の状態や希望を把握し、必要に応じて介護予防教室の調整や介護予防ケアプランを作成しサービスの利用を支援します。

こんな時、 ご相談ください

● 本人から

- ・介護保険サービスについて知りたい
- ・施設を利用してみたい
- ・足腰が弱ってきた・・・

● ご家族から

- ・もの忘れが進んでいるなあ
- ・お金の管理ができなくなってきた
- ・離れて住んでいる親が心配

● ご近所から

- ・どうも虐待されているようだ・・・
- ・ポストに新聞などが数日分たまっている

水戸市内原地域包括支援センター 電話番号 029-257-5466

水戸市鯉淵町2222-1
特別養護老人ホームもみじ館内



特別養護老人ホームもみじ館

〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵町2222-1
電話番号 029-259-9295 / FAX番号 029-259-9296

提供サービス

- 特別養護老人ホーム定員54名（ユニット型個室）
 - 地域密着型特別養護老人ホーム定員23名（従来型個室）
 - 短期入所生活介護定員30名
 - 通所介護定員40名
 - 居宅介護支援サービス ○配食サービス
- ※同建物内に水戸市内原地域包括支援センターもございます。

『特別養護老人ホーム もみじ館』公式ホームページ

<https://hokuyoukai.jp/momiji/>

『特別養護老人ホーム もみじ館』公式Instagram

<https://www.instagram.com/momijikan/>

『特別養護老人ホーム もみじ館』公式Facebook

<https://www.facebook.com/momijikan1997/>



橋本説明書

ちょっと知ると、ぐっと話しかけやすくなる

一見、静かで近寄りやすい。でも実際は「何でも言ってほしい」「困ったら早めに来てほしい」と思っている人。少し知っただけで、ぐっと距離が縮まるタイプ。

15時以降が狙い目

一日の中で比較的話しかけやすい時間帯は、15時以降。何か相談したいことや、ちょっと落ち着いて話したいことがある時は、この時間帯を目安にするよさそう。もちろんそれ以外の時間が全部ダメ、というわけではないけれど、「今ならいけそうだな」のひとつの目安として覚えておくと安心。



「プロ意識」を持って

楽しい職場を大切にしている一方で、橋本施設長が職員に求めているのは、プロ意識。橋本施設長の考えるプロとは、ただ真面目ということではなく、関わり方に責任を持つことと自分で考えることができる人です。「楽しく」と「プロ意識」。この両方を大事にしています。

Hashimoto 豆知識

食事スタイル、ちょっと独特

基本的に夜しか食べないスタイル。朝ごはんは食べず、昼ごはんも基本食べません。お昼を食べると眠たくなってしまうそうです。橋本施設長にお昼を食べさせると、お願い事が通りやすくなるかも笑

緊張すると手汗をかきます

これはちょっと人間味があって親しみポイント。緊張すると、手汗をかくそうです。完璧に見えても、ちゃんとそういうところがある。なんだか少し安心します。

橋本施設長の素顔

休日は子どもと過ごすことが多い。職場とはまた違う、父親としての顔がある。最近、水戸駅周辺の飲み屋を紹介するYouTubeを見るのが楽しみ。それを見ながら一杯やる時間が、ちょっとしたリフレッシュになっている。

仕事をすするうえで大切にしているのは「楽しさ」大切にしているのは「楽しさ」

仕事をする上で大切にしているのは、楽しく仕事すること。この「楽しい」は軽い意味ではなく、場が明るいか、みんなが笑っているとか、やりがいがあるとか、そういうものも全部含んだ深い意味の「楽しさ」。自分も楽しんで仕事をしたいし、職員にも楽しんで働いてほしい。その先に、利用者さんの笑顔や、その人らしい暮らしがある。利用者さんや子どもたちが笑ってくれた時、「ありがとう」と言ってもらえた時、そういう瞬間に仕事の楽しさを感じるそうです。

余裕がない時は“動き”に出ます

余裕がなくなると動きが速くなる。足早になったり、作業のテンポが一気に上がったたり、全体的に「パーツ」と動く感じになります。しかもその時は、黙々と仕事をしていることも多いので、ちょっと近寄りがたく見えることもあるかもしれません。でも集中しているだけなので気にせず気軽に話しかけてOK。

ぐいぐい来てほしい派

見た目や雰囲気で「ちょっと様子見たほうがいいかな」と思われがちかもしれませんが、むしろぐいぐい来てほしい派。話しかけてもらうことで相手のこともわかるし、仕事もしやすくなる。そんなふうに考えています。なので、変に遠慮しすぎなくて大丈夫です。

Profile

橋本 知幸 Tomoyuki Hashimoto
昭和59年生まれ 身長188cm 元バスケット部
営業職から、もみじ館に平成21年に入職。
その後、スワン保育園、スワンkid'sクラブ堀町(管理者)、アテンドハウス(施設長)の移動を経て、もみじ館施設長として着任。



橋本 知幸

Tomoyuki Hashimoto

もみじ館 施設長

「応援団長」から「伴走者」へ。もみじをつなぐ、リーダーのバトン

稲田 秀一

Shuichi Inada

もみじ館 前施設長

施設長の交代を迎えるもみじ館。これまで現場を支えてきた稲田施設長と、後任となる橋本施設長。これからのもみじへの想いについて矢須さん(施設相談員)がインタビューしてくれました。

矢須 もみじでの役割をどのように捉えてこられましたか。

稲田 振り返ると、「応援団長」のような立場だったのかなと思います。現場がやりたいことを後押しする、支える、そんな役割だった気がします。

矢須 もみじの強みはなんだと思いますか？

稲田 やっぱ理念が浸透していることだと思います。「こっこのほうが理念に合っていると思う」とか、「この方が事業計画に沿っている」とか、そういう言葉が自然に出てくるんです。理念が掲げられているだけじゃなくて、日々の判断の中で生きている。そこは大きいと思います。

矢須 本当にそうだと思います。自分たちで考える時も、「これってもしじつばいかな」とか、「理念からずれていないかな」とって、自然に考えるから、大きくぶれずに進んでいる気がします。

橋本施設長は、今回このバトンを受け取る立場として、どんなことを感じていますか。

橋本 正直、不安はあります。でも、それ以上に、これまで築かれてきたものの大きさを感じています。特に職員さんとの関係性です。それは、もみじの大きな財産だと思っています。

だと思っています。自分は、前に立ってぐいぐい引つ張るタイプではなく、どちらかというと、隣にいて一緒に進んでいく「伴走者」のような立場でいたいんです。

矢須 「応援団長」から「伴走者」へ、言葉は違いますが、すごく近い感じがしますね。

橋本 そうですね。一人で何かをやるのではなく、みんなと一緒に進んでいくことを大切にしたいです。

矢須 ご自身が、仕事の中で大切にしていることは何ですか。

橋本 一人ひとりには、その人なりの生活の積み重ねや人生があります。施設に入ったらそこで終わりではなく、その先の「物語」を一緒に紡いでいける「場所」でありたいと思っています。

矢須 これからのもみじに期待することを、最後にそれぞれお聞かせください。

橋本 これまで築かれてきたものをしっかり受け継ぎ、もみじの強みをどう活かしていくかを、みなさんと一緒に考えていきたいです。一人で答えを出すのではなく、みんなで考えながら、これからのもみじをつくっていききたいと思っています。

稲田 学生がいて、子どもがいて、地域とのつながりがあったり、独特の環境がある。その中で生まれることを、もっと活かして、「もみじらしさ」を、これからも大事にしていくってくれたら嬉しいですね。橋本施設長のもと、もみじ

今後のビジョン

「ここで暮らしてよかった」という言葉と、「ここで働けてよかった」という想い、その両方が響き合う施設を目指します。もみじ館の誇りは、職員の皆さんが持つ確かな技術、ご利用者に寄り添う優しい心だと感じています。それこそが、何にも代えがたい私たちの「宝」です。「介護の仕事はカッコいい」。そう胸を張って言える文化を、皆さんと共に一歩ずつ創っていききたいと思います。

宣言

私は、皆さんが一人で悩みを抱え込むことを良しとしません。介護はチームプレーです。現場の「困った」や「もっとこうしたい」という声を、何よりも大切に受け止めます。誰かが疲れている時は支え合い、誰かが新しいことに挑戦したい時は背中を押す。皆さんに「一番身近な味方がここにいる」と実感してもらえるような職場を、皆さんと共に築いていきたいと考えています。

館をさらに良い施設にしてくれることを心より期待しています。

矢須 私たちも、一緒に考えて、一緒につくっていったらと思っています。対話しながら、もみじらしさを深めていきたいです。ありがとうございました。